opusdei.org

## 聖霊 – 知られざる偉 大な御方

聖ホセマリアによる聖霊降臨 の祭日の説教(1969年5月25 日)

2023/05/27

聖霊が火のような舌となって現れ、 使徒たちの上に留まったあの五旬節 の出来事を使徒言行録に読むとき、 いろいろな民族に教会を発展させは じめられた神の偉大な力を感じま す。従順と十字架上でのご死去とそ のご復活によってキリストが死と罪 に対して得られた勝利を、神ははっ きりとお示しになったのです。

復活の光栄の証人となった使徒たち は、聖霊の力を自らのうちに感じま した。新たな光が彼らの知性と心を 開いたのです。すでに、彼らはキリ ストに従い、その教えを信仰をもっ て受け入れてはいましたが、その意 味を完全に理解できたわけではあり ませんでした。真理の霊が来てすべ てを悟らせることが必要だったので す(ヨハネ16・12-13参照)。イエス だけが永遠の生命のみ言葉を有して おられることは知っており、キリス トの跡に従い、生命を捧げる覚悟は ありましたが、まだ弱く、試練のと きが来るとキリストを見捨てたこと もありました。しかし、聖霊降臨の 日にすべては過去の出来事となった のです。剛毅の霊である聖霊は、彼 らを確固たる自信に満ちた大胆な人 間に変えました。使徒たちの言葉は

エルサレムの街々や広場に強く生き 生きと響き渡り始めたのです。

あの時、いろいろな地方からやって 来た人々は街に集まり、驚いて聴き いっていました。「パルティア、メ ディア、エラムからの者がおり、ま た、メソポタミア、ユダヤ、カパド キア、ポントス、アジア、フリギ ア、パンフィリア、エジプト、キレ ネに接するリビア地方などに住む者 もいる。また、ローマから来て滞在 中の者、ユダヤ人もいれば、ユダヤ 教への改宗者もおり、クレタ、アラ ビアから来た者もいるのに、彼らが わたしたちの言葉で神の偉大な業を 語っているのを聞こうとは」(使徒 2・9-11)。人々は、目の前で行われ た不思議のおかげで使徒の説教に耳 を傾けることになりました。使徒た ちに働きかけた聖霊は、同じく人々 の心を動かし、信仰に導かれたので す。

聖霊降臨の日の聖霊の訪れは一つの 孤立した出来事ではありません。使 徒言行録の中で、キリスト教徒の最 初の集団を、生命とみ業で導き励ま す聖霊とその行いについて触れない 頁はほとんどありません。聖ペトロ を宣教に奮い立たせたのも(使徒4・ 8参照)、使徒たちの信仰を強めた のも(使徒4・31参照)、呼びかけた 異邦人に聖霊の賜物を注がれたのも (使徒10・44-47参照)、パウロとバルナバを遠隔の地に遣わしてイエスの教えのために新しい道を開いたのも(使徒13・2-4参照)、すべて聖霊であります。一言でいえば、聖霊はその存在と働きかけによってすべてを支配されるのです。

## 聖霊降臨は過去の思い出ではない

聖書が示すこの重大な事実、聖霊降 臨は、過去の思い出でもなく、歴史 のかなたに残された教会の黄金時代 でもありません。聖霊降臨は私たち 一人ひとりの持つ惨めさや罪を超え た、今日の、そしてあらゆる時代の 教会の現実の姿なのです。「わたし は父にお願いしよう。父は別の弁護 者を遣わして、永遠にあなたがたと 一緒にいるようにしてくださる | (ヨハネ14・16) と、主は弟子たち に仰せになり、そして、その約束を 守られました。つまり、ご復活とご 昇天の後、私たちを聖化するため

に、永遠の御父と一緒に、聖霊をお 遣わしになったのです。

神の力は地の面を照らし出します。 キリストの教会は、聖霊の力を得 て、常に、すべてにおいて、諸国に 対して掲げられたしるしとなり、神 の愛と恩恵を人類に伝えるのです (イザヤ11・12参照)。私たちがど んなに限界だらけの存在であって も、信頼をもって天を眺めれば、喜 びに満たされます。神は私たちを愛 し、罪から解放してくださるからで す。教会における聖霊の存在と働き かけによって神のお与えになる平和 と喜び、そして、永遠の至福を垣間 見ることができるのです。

聖霊降臨の日、聖ペトロに近づいた 最初の人々のように、私たちも洗礼 を受けました。洗礼において父であ る神は私たちの生命を占有され、キ リストの生命に一致させ、聖霊を 送ってくださいました。聖書には次 のように書いてあります。「救いさ、聖霊によって新しく生ま通したまがえる洗いを通したのです。神は、わた通したの救い主イエストを通したちにされて、この聖霊をわたしたちにもしたちは、キリストの恵みにのですしたちは、希望どおり永遠のです」( 受け継ぐ者とされたのです」( ス3・5-7)。

自分の弱さや失敗の経験、キリスではと自称している人々の卑少嘆かませんでいるたらす、にはいいのは、この大りではいいのでは、この外見とないのでは、この外見とないが、この外見をしているのではありますが、神のは、ものはあるとは、もっと希望を強やに、もっと希望を強いたい。

ばなりません。つまり、そのような時こそ、忠誠を固めるべく努力を傾けるときなのです。

もう何年も前のことですが、私の体 験を述べさせてください。信仰はな いが善良な心を持った友人が、ある 日、世界地図を指して言いました。 「ご覧なさい。東西南北を」。「何 を見ればよいのですか」と問うと、 次のように答えました。「キリスト の失敗を。何世紀にもわたって人々 の心にその教えを吹き込もうと努め てきましたが結果はどうでしょ う」。一瞬、私は非常に悲しくなり ました。確かにまだ、主キリストを 知らない人がたくさんおり、キリス トを知っている人々の中にも、知ら ないかのような生き方をしている人 が多くいることに大きな苦痛を感じ ていたからです。

しかしこの思いはほんの一瞬で消え 去り、直ちに愛と感謝の思いに変わ りました。イエスは、各人が自由に 主の救霊のみ業に協力するようにと お望みになったのです。失敗された のではありません。み教えとご生活 は世界を絶えず豊かにしています。 キリストの救霊のみ業はそれ自体十 分で、溢れるばかりに豊かな実りを もたらしたのです。

神は奴隷ではなく子どもとしての私たちをお望みで、私たちの自由を私生されます。救霊は続けられ、ウロを重された参与します。聖パウのみもはそれに参与に、キリストの体であると、キリストの体のの生命で、私たちは自らはいるところを満たさなければならのです(コロサイ1・24参照)。

神の信頼と愛に応えるために生命を かけて自己を捧げ尽くすこと、特 に、キリスト教の信仰を真剣に受け とめる決意は、誠に、努力を傾ける 値打ちのある仕事です。使徒信条を 唱えるとき、全能の神と、ご死去の 後、復活された御子イエス・キリス ト、生命の主であり与え主である聖 霊への信仰を宣言します。そして 「一、聖、公、使徒継承」の教会 は、聖霊によって生命を与えられた キリストの神秘体であると、信仰告 白します。さらに罪の赦しと未来の 復活への希望に喜ぶのです。しか し、このような真理は心の底まで浸 透しているのでしょうか。それとも ただ口先だけに留まっているので しょうか。聖霊降臨のもたらす神か らの勝利と喜びと平和の使信は、全 キリスト信者の考え方、受けとめ 方、そして生き方の確固とした基礎 であるべきなのです。

## 聖霊と交わる

聖霊に従って生きるとは、信仰・希望・愛をもって生きることにほかなりません。言い換えれば、神が私た

ちをご自分の所有物とされ、私たち の心を根本的に変えて神に相応なることなるにお任せすることに者がないで、神の思恵が成長するおができません。使徒言いるのではありません。使徒にないですが、「でありません。自者にないでありません。「他様でありにでありますが、「でありにでありますが、「でありにでありますが、「であり、「であり、「であり、「であり、「であり、「であり、「であり、「ではない。」(使徒2・42)。

これこそ、初代教会の人々の生活であり、私たちの生活でなければならないのです。信仰の教えに精通すること、ご聖体におがれている。で黙想すること、匿名のおけると、対話をすること、神と、顔を合わたちのはな対話をすること、人のな対話をすること、人のな対話をすること、内容を持たなければなりません。仮にそれらが欠けていたとしても、博学な考察

や、多かれ少なかれ充実した活動や 信心の業や習慣はあることでしょ う。しかし真のキリスト教的な生活 はあり得ません。キリストへの同化 はなく、救いのみ業にも効果的にあ ずかっていないからなのです。

すべての人は等しく聖化に召されての人は等しく聖化に召ので、この教えはでありますでありますである。を少したが、ない方を受けまれてもなど存在しないた。神種を分からないた。は一つないですが、ないないでものである聖霊はしつであり、信仰とつなり、希望もリント12・4-6、13・1-13参照)。

従って、使徒の次の言葉は私たちに 向けられたものと考えることができ ます。「あなたがたは、自分が神の 典礼を通して教会が教えているよう に、たゆみなく、信頼をもって素直 に聖霊と交わらなければなりませ ん。そうすれば私たちの主をよりまり、同時にキリスト信者に与え られた計り知れない賜物についと も、もっと完全に理解できるこので しょう。前に述べた神の生命へで、 与や、神化の意味がいかに偉大で、 いかに真実であるかも深く理解できることでしょう。

なぜなら、「聖霊とは、ご自分が神 に無縁な存在であるかのように、私 たちの中に神の本質を描きだす画家 ではない。神の似姿を私たちに与え るのはこのような方法によるのでは なく、神であり神から発出される聖 霊ご自身が、それを受ける心に、ろ うに印が押されるように、ご自分を 刻みつけられるのである。このよう に、聖霊がご自分を伝え、ご自分の 似姿を与えることによって、神の美 しさに相応しい本性を人間に回復さ せ、再び神の似姿にするのである| (アレクサンドリアの聖チリロ、 Thesaurus de sancta et consubstantiali Trinitate, 34 [PG 75, 609]) 。

聖霊との交わり — そして聖霊を通して御父と御子との交わり — を深めて、慰め主なる御方と親しくなる

生活様式を定めるには、一般的にではありますが、次の三つの基本的な事項に留意しなければなりません。 すなわち、素直、祈りの生活、および十字架との一致であります。

素直であることが第一です。聖霊は その勧めによって、私たちの思い・ 望み・働きに超自然的な色合いを添 えてくださる御方であるからです。 人々にキリストの教えを深く吸収さ せ、従わせるように導く御方、各個 人の使命を自覚させ、神のお望みを すべて果たすための光をお与えにな る御方は聖霊です。聖霊に素直に従 うなら、キリストの似姿が私たちの 中で次第に形づくられ、日毎に父で ある神に近づいて行くことでしょ う。「神の霊によって導かれる者は 皆、神の子なのです」(ローマ8・ 14) 。

この世での生活原理である聖霊の導きに任せるなら、霊的な生命力は増

し、子どもが父親に頼るのと同じよ うに、自然に信頼しながら、父であ る神の腕に自己を依託できることで しょう。「心を入れ替えて子供のよ うにならなければ、決して天の国に 入ることはできない| (マタイ18・ 3)と主は言われました。霊的幼子 の道とは、別に新しい道ではありま せんが、いつも効果的な道です。 弱々しい人々の道でも、成熟に欠け る人々の道でもありません。それ は、神の愛の素晴らしさを深く考え させ、自分の惨めさを認識させ、自 己の意志を全く神のみ旨に一致させ る超自然的な円熟への道なのです。

第二は祈りの生活です。キリスト信者の温和・従順・奉献などは愛から出て愛に向かって進むべきものです。そしてその愛によって、交わり・語り合い・友情が生まれます。キリスト信者の生活は、唯一にして三位なる神との絶え間ない対話を必要とします。聖霊のお招きになる親

しい交わりとはその対話のことであります。「人の内にある霊以外に、いたれが、人のことを知るといますのことを知る者はいませんし、空気とかけることを知るされば、霊的に成長しているとの兄弟意識を抱き、父としていることをためらうことでしまったがあると感じることでしまってあると感じることでしまってあると感じることでしまってあると感じることでしまってあると感じることでしまってあると感じることでしまってあるとをにいう。

き、来てください、いつまでも私たちと共にいてくださいと願う黙示録の終末の光景が私たちの生活に再現されるのです(黙示22·17参照)。

最後に十字架との一致を挙げること ができます。キリストのご生涯にお いてカルワリオがご復活や聖霊降臨 に先行したように、同様の過程がキ リスト信者の各々の生活の中にも再 現されるべきなのです。聖パウロの 言葉によれば、神の「子供であれ ば、相続人でもあります。神の相続 人、しかもキリストと共同の相続人 です。キリストと共に苦しむなら、 共にその栄光をも受けるからです| (ローマ8・17)。聖霊は、ただ神の 光栄のみを求める自己放棄という十 字架の結果、神への完全な奉献の結 果、与えられるのです。

恩恵には忠実に応え、自分の心に十字架を立てて神の愛ゆえに自己を否定し、我儘と人間の誤った確信から

本当に離脱しているとき、すなわち 真実に信仰を実行するとき、そのと きこそ人は、聖霊の偉大な焔や偉大 な光、偉大な慰めを全面的に受ける ことができるのです。

キリストが勝ちとられ、聖霊の恩恵によって与えられる光と平安が私たちの心にみなぎるのもその時です(ガラテヤ4・31参照)。「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制」(ガラテヤ5・22-23)であり、「主の霊のおられるところに自由」(ニコリント3・17)があるのです。

私たちの中にはまだまだ何らかの形で罪が宿っているので、限界だらけの存在ではありますが、それにも拘わらずキリスト信者は、新たな光を受けて神の子となる富を有することを知っています。御父のために働くゆえに全く自由であると自覚し、何ものも自己の希望を破壊できないゆ

え、喜びは永続的であることを知っているのです。

それと同時に、地上のすべての美と 素晴らしさに感嘆し、すべての富と すべての善を大切にし、愛するため に創られた対象を純枠・完全に愛す ることができるはずです。人間の弱 さを知り、罪を痛悔することによっ て、キリストの救霊への望みに再び 一致し、すべての人間との結束を強 く感じることができますから、罪を 悲しむ心が私たちを苦々しい態度や 絶望的あるいは高慢な態度に向かわ せることもないはずです。結局、キ リスト信者が聖霊の力を強く自分の 中に経験するとき、自己の失敗に よって挫折することはなくなるはず です。その挫折とは、実は個人的惨 めさにも拘わらず、あらゆる場所で キリストの忠実な証人として、再び 立ち直るようにという招きにほかな らないからです。そのような場合、 個人的な惨めさと言っても、大きな

過失でも、心を取り乱させるほどの 失敗でもないでしょう。仮に重大な 過失であったとしても、痛悔の心を もち、ゆるしの秘跡にあずかれば、 神の平和は蘇り、再び神の御憐れみ を証す善良な証人になることができ るのです。

人が自己を聖霊の導きに委ねたとき の、信仰の豊かさとキリスト信者の 生活を、人間の貧弱な言葉で十分に 言い尽くすことはできませんでした が、簡単にまとめてみたつもりで す。結びとして、教会全体の絶えざ る祈りをこだまする聖霊降臨の祝日 の典礼聖歌にある祈願を私の最後の 祈りにしたいと思います。「創り主 の聖霊、来てください。わたしたち の心を訪れ、あなたに創られたこの 心を、天の恵みで満たしてくださ い。(…) わたしたちがあなたに よって、御父と御子を知り、父と子 から発せられる愛の息吹を信じる恵 みを与えてください| (聖務日課の

聖霊降臨賛歌Veni Creator Spiritus)。

(ホセマリア・エスクリバー『知識 の香り』127-129、134-138)

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-sekkyo-seirei/(2025/11/23)